

兵庫県産蝶類分布資料(7) -ミドリシジミ族 2種の記録-

(ヒロオビミドリシジミ・ハヤシミドリシジミ)

広畑政巳・近藤伸一

はじめに

シジミチョウ科の中でも特にゼフィルスと呼ばれるミドリシジミ族は日本に25種が生息し、県内には20種が生息する。

多彩で美しいこの仲間のチョウは特に愛好家が多く、チョウに興味を持った人は、必ずと言って良いほど一度はゼフィルスに夢中になる。しかし採集記録として発表されたものは少なく、県内のまとまった分布の記録も1978年(高田・井手)以降はなく、かなりの採集記録が埋もれたままになっているものと思われる。

この度は県下に生息するゼフィルスの中でも特に生息環境が激減し、絶滅の危険が増大しているヒロオビミドリシジミとハヤシミドリシジミ(兵庫県版レッドデータブック Bランク)の採集記録を各産地1例ずつをあげて、気付いたことを付記した。分布図については、場所の不明確な所は省いている。本資料以外にも産地は多くあると思われるので、本稿は今後の調査の基礎資料としてご活用いただき不備を補っていただきたい。

本稿を草するにあたり、次の方々には採集記録をご提供いただき、産地の状況等をご教示いただいた。ここに記してお礼申し上げます。

相坂耕作 石井為久 岩村 巖 尾崎 勇
木下賢司 黒田 収 高田忠彦 徳岡正巳
永幡嘉之 花岡 正 春井博文 福原 整
森下泰治 (敬称略・五十音順)

1 ヒロオビミドリシジミ

(1) 分布の状況

平地～低山地の2次林を生息地とし、ナラガシワを食樹として山口県東部から京都西部、大阪北

部に至る中国地方を中心とした本州西部のごく限られた地区に分布している。

県下の分布は図1のとおりで、ナラガシワが多い西播磨地域を分布の中心に、但馬地区にも点在している。東播磨から丹波、阪神地区にかけて大きな分布の空白地帯があり、県南東部の三草山周辺地区(川西市、猪名川町)に分布する。

淡路島北部で2例の卵採集の記録はあるが、成虫の確認は出来ていない。その後の調査でも再確認は出来ていない。淡路以南には分布せず、対岸の神戸や東播磨地区も分布の空白地帯であり極めて特異な分布と言える。再度の調査が望まれる。

県内におけるナラガシワの分布は広く、まだヒロオビミドリシジミが確認されていない場所でも、生息の可能性の高い場所が数多くある(新宮町上蒔原、下蒔原等の西播地区、但東町矢根等の但馬地区)。今後の調査を期待したい。

(2) 生息環境の現況

ナラガシワを食樹としているため、ナラガシワが生え、コナラ、クリ、アベマキ、クヌギなどが混交する2次林を生息地としている(カシワの産卵例がある)。標高は表1のように200m付近が最も多く、県北部では日高町大岡山付近、南部では三草山頂上付近が一番標高の高い生息地(標高約500m)と思われる。

このような2次林は、過去薪炭林として維持されてきたが、近年、生活様式の変化に伴い、放置され、或いは針葉樹の植林地に代わり、また都市に近い丘陵地では開発が進んだため、生息地は局限され、産地は年々減少している。

(3) 採集記録

猪名川町上阿古谷 2♂1♀ 2-VII-1958 田中 蕃¹⁴

- 猪名川町仁部 2卵 15-II-1958 田中 蕃¹⁴
 // 雨森山 1♀目撃 26-VI-1958 田中 蕃¹⁴
 // 三草山¹⁴・民田
- 川西市笹部 1♂ VI-1953 小泉一志¹
 姫路市林田町六九谷 1卵 30-III-1980 広畑政巳⁹
 // 林田町松山¹²
- 安富町塩野¹¹
- 一宮町福中 1幼虫 20-V-1984 近藤伸一
 // 井ノ内 13卵 3-IV-1977 若林・高田¹
 山崎町青木 3卵 19-I-1980 岩村 巖⁵
 // 蟹ヶ沢 5卵 19-X-1978 高田忠彦¹
- 新宮町牧 1卵 15-I-1984 広畑政巳⁷
 // 相坂 1♀ 17-VI-1977 黒田 収⁴
- 相生市矢野町瓜生 2♂3♀ 16-VI-1963 岩村 巖³
 // 矢野町小河 3卵 6-II-1977 高田忠彦¹
 // 三濃山¹²・三濃山東山麓¹²
- 上郡町大富 1卵 17-II-1980 広畑政巳
 // 野桑 5卵 17-II-1980 広畑政巳
 // 大杉野 5♂2♀ 15-VI-1963 岩村 巖
 // 三濃山西南山麓¹²・富満¹²
- 佐用町上石井 8卵 31-I-1982 近藤伸一
 // 下石井 2♂1♀ 16-VI-1974 広畑政巳
 // 海内 5卵 15-I-1978 広畑政巳
 // 青木 6卵 8-III-1981 広畑政巳
 // 若洲 3卵 27-XI-1983 広畑政巳
 // 吉福⁴・山田⁴・福沢⁴・大島⁴・中の原⁴
 // 水根⁴・奥海⁴・桑村¹²・三原¹²*¹
 // 渋谷¹²*²
- 南光町船越¹²
 // 下三河 石井為久
 // 東徳久 1♂ 春井博文
- 三日月町春哉 4卵 17-II-1980 広畑政巳
 // 弦谷 2♂4♀ 20-VI-1964 岩村 巖
 // 三日月 1♂ 17-VI-1978 広利正美⁴
 // 法谷寺¹²
- 佐用郡久崎村* 4♂1♀ 17-VI-1934 山本広一¹⁰
 上月町才金 8卵 3-II-1980 川崎悟良⁶
 // 大益^{※3} 1♂ 18-VI-1967 喜多¹

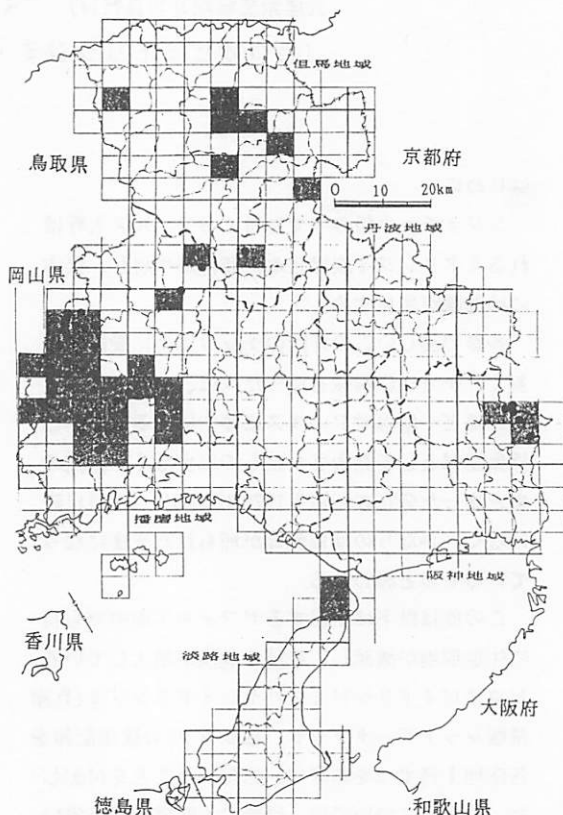


図1 ヒロオビミドリシジミの県内分布

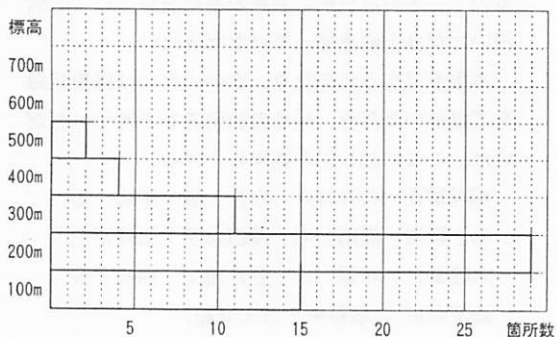


表1 ヒロオビミドリシジミの垂直分布

- 上月町久崎 5♂5♀ 17-VI-1964 岩村 巖
 // 中山 5卵 3-II-1980 広畑政巳

※1 三原は佐用町ではなく三日月町の誤り?
 ※2 渋谷も佐用町内では確認出来なかった
 ※3 大益も上月町内では確認出来なかった

上月町下秋里	2♂	15-VI-1975	広畑政巳
〃 上秋里	11卵	15-II-1981	広畑政巳
〃 下上月 ⁴ ・早瀬 ⁴ ・金屋 ⁴ ・福吉 ⁴ ・福中 ⁴			
〃 佐用川流域 ^{1,2}			
日高町栃本	1♂	19-VI-1979	木下賢司 ²
〃 鶴岡	1♂	19-VI-1979	小崎茂樹 ²
〃 大岡山	1♂	22-VI-1984	木下賢司 ²
出石町榎見	2卵	16-X-1977	高田忠彦 ¹
温泉町桐岡	3卵	19-III-1977	高田忠彦 ¹
和田山町野村	8卵	3-XI-1977	高田忠彦 ¹
朝来町土肥	10卵	29-XI-1977	高田忠彦 ¹
八鹿町小佐	10卵	14-X-1977	高田・井手 ¹
淡路町谷山	10卵	8-X-1978	福原・糺谷 ¹
北淡町江崎	12卵	31-X-1978	高田・井手 ¹

2 ハヤシドリシジミ

(1) 分布の状況

食樹であるカシワの分布に併せて、北海道、本州、九州に分布するが、近畿、中国の太平洋側及び四国には生息していない。

県下の分布は図2のとおりで、但馬の丘陵地帯を中心に西播磨地域にかけて、内陸の高原に分布している。

(2) 生息環境の現況

県下のカシワの分布は但馬や西播磨の丘陵地帯と山陰海岸であるが、ハヤシドリシジミの分布は内陸の高原に限られ、生息地の標高は表2のとおり300m~600mが分布の中心で、山陰海岸からの確認はない。カシワは伐採や火入れに強いので、昔の草刈場、放牧地などに残っているが、このような土地利用の形態は近年急速に減少し、放置された箇所は森林となり、また伐採された跡地は針葉樹の植林地となり、ハヤシドリシジミが生息するような明るい高原のカシワの疎林は局限され、かろうじて残された区域もパラグライダー基地や高原を活用した野外施設などに利用され、減少の一途である。現在生息地には比較的個体数が多い

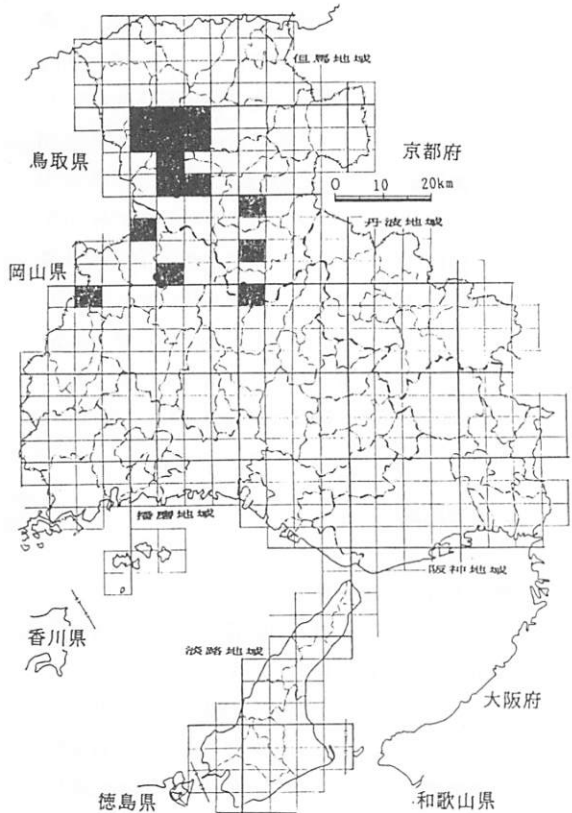


図2 ハヤシドリシジミの県内分布

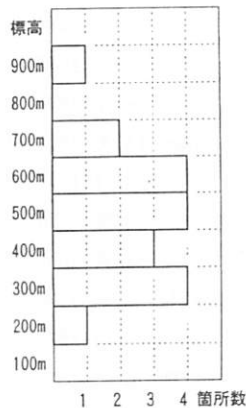


表2 ハヤシドリシジミの垂直分布

ため、あまり注目されていないが、気が付けば絶滅していた……という時が、近い将来来る可能性は極めて高い。

垂直分布図(表2)の900mの場所は日名倉山であるが、現在は針葉樹の植林が進み、東面(千種町)、南面(佐用町)は頂上部から麓にかけて見渡す限り植林地である。西山麓の日名倉山キャンプ場(佐用町・600m付近)にカシワが残っており、兵庫県側ではハヤシミドリシジミが生息する可能性があるのはこの付近だけであろう。なお北西面(岡山県東粟倉村)の標高800m付近はカシワの林がかなりの面積で残っており、800~900m付近は村の建物施設が出来て休日は車のラッシュとなっている。頂上付近(1,000m付近)は少ないながらカシワが残っている。

(3) 採集記録

千種町室	3♂1♀	12-VII-1969	喜多 ¹
波賀町水谷 ¹¹ ・東山高原 ¹¹ ・道谷 ¹¹			
佐用町日名倉山	1♂	16-VII-1978	広畑政巳
日高町金谷金山峠	18卵	9-X-1977	福田・小林・高田・井手 ¹
〃 名色林道	2♀	3-VIII-1977	木下賢司 ²
美方町神場	6卵	29-XI-1977	高田忠彦 ¹
温泉町美原高原	1♂1♀	9-VII-1978	広畑政巳
村岡町村岡	5卵	29-XI-1977	高田忠彦 ¹
〃 兎和野	10卵	29-XI-1977	高田忠彦 ¹
〃 相岡	1♂	9-VII-1978	広畑政巳
〃 耀山	3♂1♀	8-VII-1978	木下賢司 ²
和田山町藤和	10卵	14-X-1977	高田忠彦 ¹
朝来町土肥	8卵	29-XI-1977	高田忠彦 ¹
生野町生野牧場	4♂3♀	28-VIII-1971	井上 健 ¹³
大屋町西谷地区	3♀	8-VIII-1958	中尾淳三 ¹⁰
大屋町杉ヶ沢	5♂2♀	5-VII-1964	木下賢司 ²
関宮町杉ヶ沢	28♂26♀	10-VII-1976	高田・井手 ¹
〃 相地	12卵	18-XI-1977	高田忠彦 ¹
関宮町別宮	10卵	20-XI-1977	高田・小林 ¹
〃 東鉢伏	1♂1♀	7-VII-1985	松村秀行 ¹⁵
〃 葛畑	4♂2♀	8-VII-1992	永幡嘉之 ¹⁷

3 ヒロオビミドリシジミとハヤシミドリシジミの混生地について

両種が同じ場所で採集されたのは朝来町土肥(高田 1977)だけで、民家に近い場所のカシワからヒロオビミドリシジミとハヤシミドリシジミの卵が得られたそうである。

本年同地を調査したが、土肥集落からその裏山にかけては、ナラガシワが数多く見られたもののカシワは確認出来なかった。

地元の方の話では、集落の裏山は、昔は放牧地で、草原の中にカシワが生えていたそうである。

カシワは葉の裏に毛が多く、餅を巻くのに使い「マキノハ」と呼んでいたが、ナラガシワは葉の裏に毛が少なく、餅がくっつくので、餅巻きには使わず「クヌギ」と呼んでいたそうで、カシワとナラガシワが当地区では明確に区分され、またカシワとナラガシワが混生していたことは明らかである。

現在はさう高原と呼ばれてテニスコート等の運動施設、宿泊所、別荘、パラグライダー基地などになり、果樹園や茶畑としても利用され、カシワは消えてしまったようである。

現在もヒロオビミドリシジミが生息する可能性は高いが、ハヤシミドリシジミは、カシワ林の消滅とともに姿を消したものと思われる。

<参考文献>

- ① 高田忠彦・井手敏晴(1978)兵庫県産蠅類調査報告(1)シジミチョウ科その1 MDK-ユースNo.79 :1~69
- ② 木下賢司・前平照雄・福井丈嗣(1986)但馬地域の蠅類目録 IRATSUNE(10):63
- ③ 岩村 巖(1965)西播におけるヒロオビミドリシジミの分布に関して 兵庫生物vol.15 No.1
- ④ 岩村 巖(1979)兵庫県西部のヒロオビミドリシジミの分布に関して ひろおびNo.4:23
- ⑤ 岩村 巖(1980)西播の蠅分布資料(7) 山崎町の蠅類 ひろおびNo.5:6
- ⑥ 川崎悟良(1980)ヒロオビミドリシジミの新産

- 地 ひろおびNo.5:18
- ⑦ 川崎悟良(1984)ヒロオビミドリシジミを追って ひろおびNo.7:17
- ⑧ 黒田 収(1976)佐用郡の蝶・前年との比較 てんとうむし1&2:13
- ⑨ 相坂耕作(1980)姫路市の昆虫 てんとうむしNo.6:11
- ⑩ 山本広一(1971)兵庫県の蝶相 むしNo.3:5~6
- ⑪ 尾崎 勇(1984)兵庫県の蝶(2) 揖保川水系の蝶相 ひろおびNo.7:16~22
- ⑫ 蝶研出版編集部(1989)スーパー採卵術 蝶研出版(茨木市)
- ⑬ 井上 健(1972)兵庫県生野牧場において8月下旬ゼフを多数採集 昆虫と自然7(4):36
- ⑭ 田中 蕃(1980)森の蝶セフィルス 築地書店 東京
- ⑮ 京都大学蝶類研究会(1987)日本産蝶類239種類の記録(上) SPINDA(2):39
- ⑯ 京都大学蝶類研究会(1987)日本産蝶類239種類の記録 SPINDA(1):21
- ⑰ 木下賢司ほか(1996)但馬地域の産蝶目録Ⅱ IRATSUME(20):66~86
(HIROHATA MASAMI 姫路市白鳥台3-11-8)
(KONDO SHINICHI 神戸市西区岩岡町岩岡619-57)

ホソマダラシバンムシ神戸市内で採集

(兵庫県甲虫相資料・325)

高橋寿郎

1996年4月22日、当日は快晴であった。暫く4月にしては珍しく寒い日が続き、遅霜警報が出たりしていたが、この日は久方振りに日中気温が上昇、平年並み気温に近く17℃位にまでなったようであった。午後4時過ぎ頃、愚妻が日の当たっている洗濯物にこんな虫がいましたよと1頭の虫をもって来てくれた(元気に動きまわっていた)。他にも1頭とまっていたととのことであったが、結局1頭のみ標本にしてきて何という虫だろうと眺めてみてシバンムシの1種だとわかった(体長6.5mm)。

原色日本甲虫図鑑(Ⅲ) pl.23, f.1, p.140 に図説されているホソマダラシバンムシ *Xestobium shibatai* SAKAI だと同定した。そこで原記載(Trans. Shikoku Ent. Soc. Vol.14, No.3-4, p.131-132, Fig.1, 1979)を読んでみたが、この種に間違いないと判定した。原記載使用のものは群馬県菅沼産♀であり、原色日本甲虫図鑑(Ⅲ)にも分布は本州とのみあり、日本産昆虫総目録(1989)にも分布は本州とのみになっている。本州での分布状況はよくわからないが、少なくとも兵

庫県下からの記録はなかったと思うので、ここに記録しておきたい。ただし、洗濯物に飛来していたというだけではわが家の近所にこんな虫がいるのかどうか、大変興味のある点を残してくれたものである。

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

フタイロカミキリモドキを 南淡町門崎で採集

近藤伸一

フタイロカミキリモドキ *Oedemeronia sexualis* は四国、九州から南西諸島にかけて分布する南方系の昆虫で、県下では洲本市由良町、家島町、赤穂市生島と3例の採集記録がある。

本年、淡路島の南先端付近で、海に面して自生するトベラの花に、本種が多数見られた。

県下の分布の状況を御教示頂いた高橋寿郎氏に厚くお礼申し上げます。

三原郡南淡町福良丙(門崎)

3♂1♀ 24-V-1996 近藤伸一

(KONDO SHINICHI 神戸市西区岩岡町岩岡619-57)